

草加市立歴史民俗資料館 Soka City Museum of History and Folklore

れきみんだより

2024年9月15日発行 VOL.19

夏休み「れきみん体験教室開催」

親子で体験、良い思い出ができました

草加市立歴史民俗資料館では、毎年子どもたちの夏休み体験活動を開催しています。今年度も盛りだくさんの「れきみん体験教室」を開催しました。長期の休み以外でも体験活動を実施しています。是非、皆さんも参加してみてください。お待ちしております。

大昔の生活を体験しよう（火起こし）

大昔の体験ということで、昔の人々が火を起すときに使っていた「まいぎり」という道具を使って、火起こし体験をしました。親子で力を合わせながら、発火する一歩手前、煙が出るまでの様子を体験しました。この日は、湿気が高く、発火には至りませんでしたが、参加者全員で、昔の火起こしの大変さを実感することができました。



「まいぎり」による火起こしの様子

竹水でっぼうを作ろう

自然に生えている竹を利用して、竹水でっぼうを作りました。材料は、片方に節を残した竹筒、ピストンにする木の棒、ピストンに巻くスポンジ、布切れ、しばるためのタコ糸です。

竹の筒とピストンがしっかり密着するように何度も調整を繰り返します。そして、とても難しかったのは、節のところに開ける穴の大きさです。穴が大きいと、水がすぐにもれて遠くに飛びません。小さすぎると、水が出にくい状態です。親子で何度も、布を巻いたり、はずしたり、巻き直したり苦労して、全部手作りの竹水でっぼうができました。完成後は、みんなで遠くまで水を飛ばして、楽しく遊びました。



竹水でっぼう、水が勢いよく飛んだー



ガリガリとんぼ作り

竹を削ってギザギザの凹凸を作り、その先に針で紙の羽を付けます。そして、ギザギザの部分に割り箸を当て、こすって竹に振動を与えると、先に付けた紙の羽がくるくる回りだします。不思議ですね。



かわいい作品がいっぱいできました

藍染ハンカチ作り

昔からの^{あい}藍染の技法を使って、ハンカチを染めました。はじめにデザインを決め、染め上がりを想像しながら、ハンカチを糸でしばったり、輪ゴムで止めて、白く残すところを作っていきます。最後に藍で染めて、落ち着いたら水で洗い流します。乾いたらでき上がりです。

デザインを考えています



4月以降、子どもを対象とする体験教室では、草加に伝わる昔話を題材にした「たぬきちゃんを作ろう」や、七夕の時期には「七夕かざりを作ろう」を開催し、多くの子どもたちが体験しました。

企画展「日光道中草加宿と参勤交代-仙台藩(伊達家)を中心として-」を開催しました

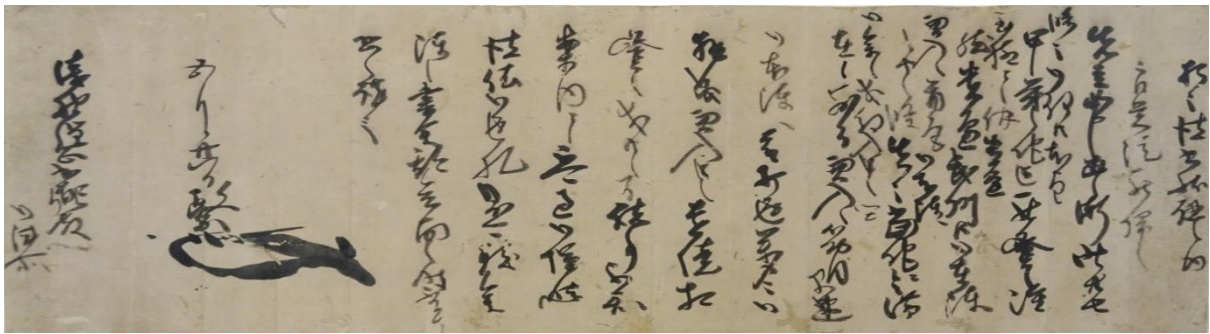


日光道中で江戸より二番目の宿場町として栄えた草加宿では、東北諸藩の大名が参勤交代の途上、休憩や宿泊のために立ち寄ったことが知られています。毎年秋に開催される「草加宿場まつり」では、宿場町の歴史を伝える取組として、草加宿を通った大名を題材にした大名行列が催されており、歴史民俗資料館では、その年に取り上げられる東北大名を中心とした企画展「日光道中草加宿と参勤交代」を開催しました。

令和3年度以降、コロナ禍のため「まつり」は中止が続きましたが、令和6年度は春開催の初めての年となり、仙台藩の伊達家に取り上げられました。

歴史民俗資料館では、伊達家を紹介するとともに仙台藩に関する資料を通して参勤交代や日光道中、そして草加宿が果たしてきた役割や宿場の経営など、往時の草加宿の人々の暮らしも紹介しました。今回の企画展においても、仙台藩のこと、伊達家のこと、そして草加宿のことを、ご来館の皆様にお伝えできたことと思います。

松伏町に残る伊達政宗書状（小田原参陣の軌跡）



⑬猶々彼書状認候内

⑭良寛院罷帰候

①先立如申述候漸昨廿七

⑮条々御理共本望

②甲府之地迄罷登候雖

⑯至極二候併貴辺

③然貴辺武州口御在陣

⑰憑入候首尾御本陣へ

④之由候条先々当地二令滞

⑱御参之義待入迄候、以上

⑤在候別而憑入候節目早速

⑥御本陣へ被打返万々御

⑦執成憑入迄候遠境相

⑧登之義共候間諸事不知

⑨案内二候不可過御塩味候

⑩彼依御返礼則可致参

⑪陣候書余期会面之時不具候

⑫恐々謹言

五月廿八日 政宗（花押）

浅野弾正少弼殿

御陣所

私たちの身近に伊達政宗^{だて まさむね}の書状が残されていることに驚かされます。仙台藩初代藩主であり、領地は仙台。草加からは、遠く離れていますが、その内容についてご紹介しました。

北葛飾郡松伏町の杉浦家に伝来する伊達政宗の書状で、現在は埼玉県立文書館に寄託されています。伝来の過程については諸説あり、はっきりしたことは分かりません。大きさは、縦17cm×横47cm。花押は有名な、「鶴鴒^{せきれい}の花押^{かおう}」と呼ばれているものが示されています。

杉浦家は織田氏、豊臣氏に仕えた、祖先は美濃国の竹ヶ鼻城主でしたが、家康の時代、一家を存続させるため、親は豊臣氏に忠義を尽くし、子は家康の家臣伊奈忠次に仕えさせました。

この書状は、伊達政宗が小田原合戦参陣の折、浅野長吉^{あさの ながよし}（長政）に宛てたもので、豊臣秀吉への面会をとりなしてほしいとの旨がしたためられています。



ここに示されている花押は政宗の代表的なものの一つで、鳥の「鶴鴒」を模したものです。政宗の花押は種類も多く、書状の相手先によって使い分けていたともいわれています。

恒例の「そうか芭蕉塾」 開催しました

・令和6年度テーマ

松尾芭蕉と『おくのほそ道』の旅-象潟から小松まで-

・講師 谷地 快一 先生（東洋大学名誉教授）

・7月から8月にかけて連続4回の講座

元禄2年（1689）3月27日、松尾芭蕉は、門人の河合曾良を伴い、歌枕（古歌来歴の地）を巡る旅へと出立しました。有名な『おくのほそ道』の旅です。『おくのほそ道』には、奥羽長途の旅の第一日目の感慨として「其日漸 早加と云宿に たどり着にけり」の一文が記されています。「早加と云宿」とは日光道中第二の宿場町である草加宿のことであり、『おくのほそ道』は草加の地名が登場する、文学作品になります。

なお、芭蕉が草加宿に歩みを進めた3月27日は、現在の暦で5月16日に当たります。

今年度も、東洋大学名誉教授・谷地快一先生をお招きして「そうか芭蕉塾」を開催しました。特に今回の連続講座では、象潟から小松までを取り上げて、読み解いていただきました。初回にまとめて資料を配布しましたが、先生も毎回補助資料をご用意くださり、大変分かりやすい講演会となりました。

来年度以降も「そうか芭蕉塾」を開催したいと考えています。興味のある方は、歴史民俗資料館にお問い合わせください。



令和6年7月7日（日）第1回「そうか芭蕉塾」

「子どもたぬき絵作品展」開催

毎年、歴史民俗資料館を会場に、草加駅前一番通り商店会の主催による「たぬき絵コンクール」が開催されます。今年度も、歴代入選作品と共に今年度の入選作品を展示します。

歴史民俗資料館の前の通りは、通称「ぼんぼこ通り」といわれています。草加の昔話にも出てくる外山公園が近くにあり、昔はたぬきが住んでいて、出会った人を化かすという言い伝えがあります。実は近年、この付近でもたぬきの出没情報が飛び交っています。筆者も目撃者の一人です。皆さんも、たぬきと出会えるかも知れませんね。

・作品展開催期間

令和6年9月10日（火）～9月29日（日）

・会 場 歴史民俗資料館 2F 多目的室

※ ご来館お待ちしております。

草加市立歴史民俗資料館
facebook やってます
皆さんに草加市の歴史や文化、
資料館の活動を伝えたくて、公
式フェイスブックページを開設
しています。様々な情報を発信
していますので、ぜひ、ご覧く
ださい



市公式ホームページ、
または、上の二次元コ
ードからアクセスでき
ます

【開館時間】午前9時から午後4時30分

【休 館 日】毎週月曜日（祝日または振替休日の場合
は翌平日）年末年始

【入 館 料】無料

【住 所】〒340-0014草加市住吉一丁目11番29号

【問合せ先】電話048-922-0402 FAX048-922-1117

